「基幹系システム・フロントランナー・サポートハブ」 最終報告

2024年12月 株式会社 西京銀行





1. 案件概要

1-1. 社会的意義



基幹系システムを"共同利用型メインフレームシステム"から、"開発自営型クラウドシステム"へと移行することで①営業店改革②システムの機動性と独自性の向上③IT駆動型ビジネスモデルへの転換を行い、行内の生産性向上だけでなく、地域のお客様への更なる価値提供を実現。

<基幹系システム刷新プロジェクトの効果・意義>

先行行の取組み、ノウハウの活用 ~コンサル店舗への営業店改革~

先行行の先進的な取り組みを参考に西京銀行独自のカウンターレス(事務レス・伝票レス)のコンサル店舗へと改革。

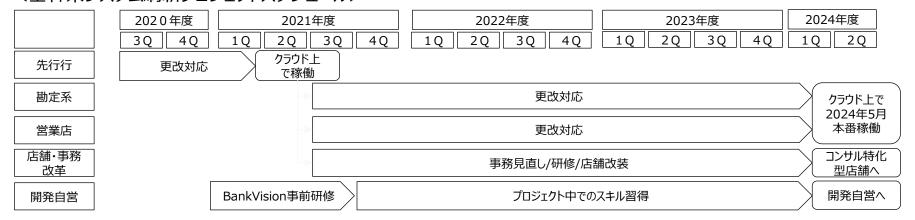
共同利用型から開発自営型への移行 〜システムの機動性と独自性の向上〜

銀行独自のリソースで開発を行うことにより、ベンダーに依存することなく、利用者のニーズに基づいた迅速なサービス・価値提供を可能に。

IT駆動型ビジネスモデルへの転換

開発自営型に移行することで、ITに関するノウハウを銀行へ蓄積。それらを活かし地域事業者に対するITコンサル等の価値を提供。

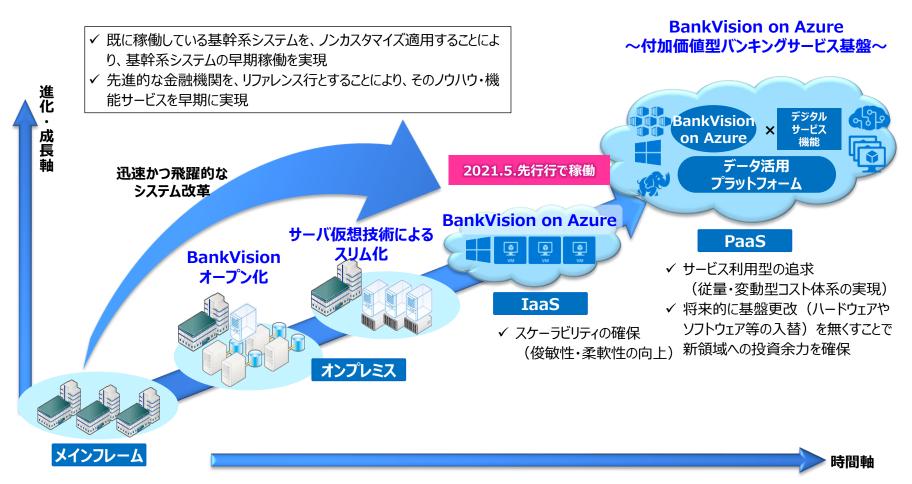
<基幹系システム刷新プロジェクトスケジュール>



1-2. 先進性



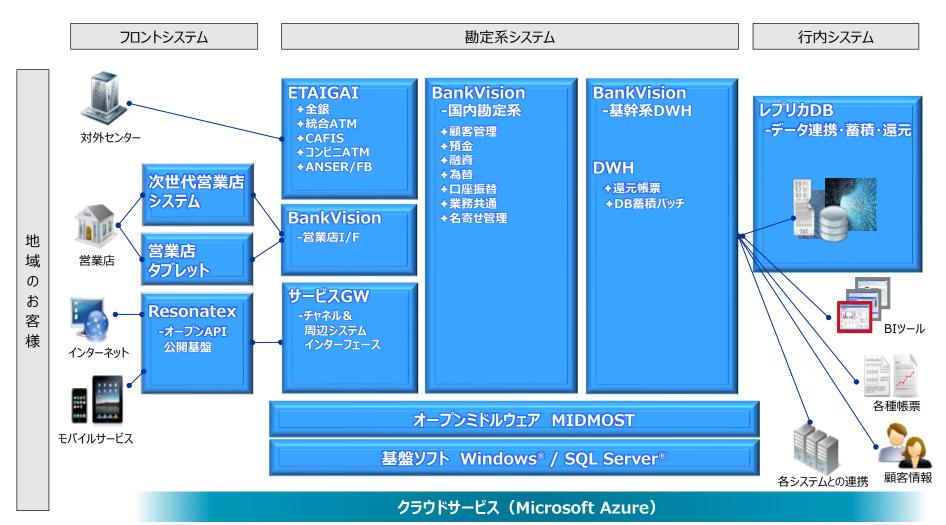
ベンダーのメインフレーム上で稼働する共同利用型基幹系システムから、オンプレミスのオープン系システムを経由せず、クラウド上で稼働する開発自営型基幹系システムに直接移行する新たな取り組み。



1-2. 先進性



くシステム全体図>





2. 結果概要

2-1. 営業店改革



- *「地域に開かれた、オープンで居心地の良い店舗」をコンセプトに、山口県内店舗をカウンターレス(事務レス・伝票レス)店舗にリニューアル。2024年4月、全29店舗のリニューアル完了。
- * 店舗内はカフェ風のインテリアを採用。ゆったりと、リラックスしてご利用・ご相談いただける空間に。

従来の銀行店舗



* 窓口カウンターで隔てられた、 お客さまスペースと行員スペース



2-1. 営業店改革



- * 2024年5月、勘定系システムをBankVisonへ移行。後方事務や役席承認事務のセンター 集中機能により、営業店の「事務レス」を実現。
- * さらに、お客さまには伝票をご記入いただくことなく、行員のタブレット操作で完結する「伝票レス」取引に刷新。営業店は「完全コンサル現場」に!

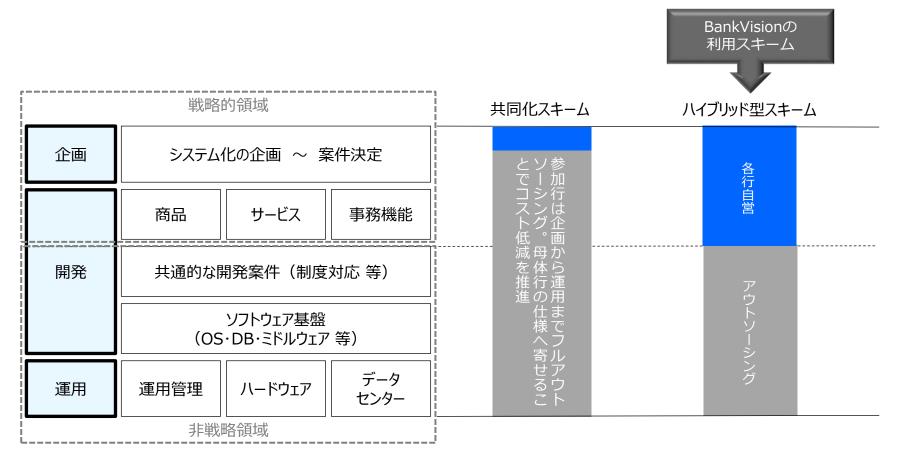




2-2. 共同利用型から開発自営型への移行



- * 非戦略領域(ファシリティ、ハードウェア、ソフトウェア、制度対応開発、システム運用等)は ベンダーにアウトソーシングすることで、銀行内のシステム要員は戦略的領域に集中。
- * 戦略的領域を自営、アプリケーションの資産を銀行が保有することで、企画・開発のスピードと 自由度を向上させ、ITのノウハウを銀行に蓄積していく。



2-2. 共同利用型から開発自営型への移行



* 開発自営の実現に向け、移行プロジェクト開始前にプロジェクト参画メンバーに対して開発自営に向けた研修を9か月にわたり実施。移行プロジェクト期間中にプログラム開発、障害対応を実践することで開発自営可能なレベルへの引き上げを実現。

研修項目	研修内容
AP開発	BankVisionシステムでのリアル・バッチプログラム開発を行うためのAP構造の理解ネーミング規約、プログラム規約などの規約、各種ガイドの理解開発ツール(MIDMOST/DE)の習得プログラムの新規製造、修正が可能となるスキルの習得障害対応の習得
運用	日次・月次・期次・年次・随時バッチの処理の流れ、処理概要の理解 ジョブネットの生成、管理についての手順の理解
営業店IF/対外系	開発機の各種運用コマンド操作の習得 障害発生時の一次対応(メッセージ・ログの確認方法等)の習得
開発環境維持·管理	開発機の定例作業(各サブシステムの起動手順、環境変更手順等)の習得
ライブラリ管理	プロジェクトマネージャーチェックアウト/チェックイン方法、各種資材の管理手順の習得 リポジトリ環境の変更手順、運用の流れの理解

2-2. 共同利用型から開発自営型への移行



移行プロジェクトの主な成功要因

- * 既にリファレンス行で稼働している基幹系システムを、ノンカスタマイズで適用することを経営方針として掲げ、現場レベルで要件変更によるカスタマイズが発生しないよう徹底。
- * ノンカスタマイズの例外を、お客さまに既に提供している商品・サービスを維持するために必要な範囲に限定し、行内事務は現行踏襲せず新システムに合わせることで開発工数を最小限度に抑制。
- * メインフレームからクラウド上への移行については、2021年5月の先行行での稼働以降、定常的に機能改善が実施されており、今回の稼働においてクラウド起因による障害は発生していない。

開発内製化の主な成功要因

- # 開発自営に向けたスキル習得のため、移行期間中のバッチ開発を内製で実施。
- * 計画したスケジュール期間での確実な移行を実現するため、オンライン開発については移行期間中はベンダーに開発を委託。
- * システム移行後は、オンライン開発、バッチ開発とも内製化で実施している。



3. 今後の取組み

3-1. IT駆動型ビジネスモデルへの転換



- * 基幹系システム移行による開発自営ノウハウを活用し、スマホバンキングの全面刷新に着手。 スマホバンキングアプリも開発自営型で構築することで、迅速なサービス・価値提供を行う。
- * 開発自営型に移行することで蓄積するITに関するノウハウについて、ITコンサルを通じて地域の皆さまの発展につながる価値を提供していくため、システム部門からコンサル部門へのリソース提供も実施していく。

